

東濃農林事務所の普及活動状況

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農事組合法人 法人の定例会議の開催

7月11日に、土岐市にある農事組合法人の定例会議が開催された。本法人は、昨年の11月に設立され、本年度に本格的に運営が始まった。会議では、水稻栽培状況の確認や収穫後の販路、多面的機能の取組について検討された。

農業普及課からは、本年度に多発が懸念されるイネカメムシの防除対策や農薬安全使用、農作業安全の取組み（熱中症予防）、法人運営に係る留意点について説明し、安定的な法人運営に資するための情報提供を行い、活発な議論が展開された。

農業普及課では、今後も定期的に開催される会議において、継続的に情報提供を行うことで、法人の持続的な経営に向けた支援を行っていく。



【定例会議の様子】

■新規就農者 経営改善支援会議

多治見市の新規就農者を対象に、今後の経営方針を検討するため、新規就農者サポートチームによる支援会議を開催した。

ぎふアグリチャレンジ支援センターの「農業経営者法人化等総合サポート事業」を活用して中小企業診断士を招き、経営状況や就農計画の進捗状況を踏まえた相談や助言も行われた。

会議では、新規就農者から事業計画や財務状況などが報告され、機械・施設設備の整備に伴う資金借入計画など中長期的な計画について検討を行い、今後の経営方針や課題を明確化した。

また、認定農業者への移行スケジュールについても打合せが行われ、今後の経営発展が期待される。



【経営改善支援会議】

農業普及課では、今後も栽培技術的な指導のほか専門家の招聘などにより経営体の経営指導・改善支援を行っていく予定である。

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■農産物直売所 ネギ栽培研修会の開催

きなあた瑞浪出荷者協議会は、瑞浪市内にある直売所「きなあた瑞浪」へ農産物を出荷する会員を対象に、毎年数回栽培研修会を開催している。

7月22日、ネギ生産者のは場で栽培研修会を開催し、会員など約10名が参加した。昨年の夏期の高温でネギが病害等で腐り、収穫できなかつた生産者が多かったことから、農業普及課から夏期の猛暑下での栽培管理のポイントと病害虫防除対策について説明を行った。

近年、きなあた瑞浪におけるネギ出荷量は増えてきているが、供給量が十分でないため、更なる生産拡大を進めている。ネギは露地栽培でも作型を組み合わせることで周年栽培が可能となるため、昨年度より新たなブランド育成支援事業にて栽培実証を行っており、今年度は猛暑対策の実証を7月定植の春どり作型で予定している。

今後も生産者や関係機関と連携して、年間を通じた安定生産技術の確立により生産拡大につなげていく。



【ネギ栽培研修会の様子】